

# 新庄市議会 行政視察報告書

穆清会 奥山省三・遠藤敏信・小関 淳

## 【全体的事項】

1. 視察日程 平成 30年 10月 22日 (月)
2. 調査事項 (視察先)  
(1) 野々市市「学びの杜ののいちカレード」の視察
3. 視察参加議員 奥山省三・遠藤敏信・小関 淳

## 【具体的事項】

### 調査事項 (1)

地域における図書館の存在意義について  
(視察事項)  
野々市市「学びの杜ののいちカレード」

■視察日時 平成 30年 10月 22日 (月)  
午後 1時 00分 ~ 3時 00分

## ■所 感

石川県野々市市は、北陸の大都市である金沢市に隣接するベッドタウンとして近年大きな発展を遂げている。それだけに、全国の地方自治体が頭を抱える人口減少・高齢化・少子化などの問題には無縁と思えるような自治体である。人口は約52,000人で、様々な定住促進策を仕掛けており、今後も増加が予想されている。

今回、視察をお願いした「学びの杜ののいちカレード」は、誰もが定住したくなるまちの重要な要素である、教育・文化・芸術分野を担う「文化交流拠点施設」である。この施設を「市民の学びと文化・芸術・創造、情報発信、市民協働におけるシンボルとして、29年11月にPFI事業として開館させた。館内のサービスは、図書館事業を中心として、研修・会議室、キッチンスタジオ、音楽スタジオ、創作スタジオ、ギャラリーなど、多様な利用者に対応できる設備が整っている。まさに住民が様々な目的で交流できる施設となっている。視察は10月末で、まもなく開館一周年を迎えるところだったが、すでに9月で来館者100万人を達成していた。

新庄市には、指定管理者が運営している市立図書館がある。スタッフ全員が日々、利用者に対してレファレンスを含めた、県内でも珍しい8名もの司書を擁するスタッフ陣が、誠意あるサービスを提供している。

しかし、残念ながら施設自体が利用者の安全性・利便性を確保できていない。駐車スペースは数台しか利用できず、その上冬期間は駐車できない。このような施設で本当に最上地域唯一の図書館施設として十分な機能を果たしているのか、甚だ疑問である。野々市市にある「学びの杜ののいちカレード」のような施設を建設すべきなどとは、財政厳しい当市に要求ができるわけもない。

せめて、図書館事業が通常のレベルで、遂行できるような最低限の施設にするか、あるいは安全に利用できる別の施設に移転するような方向性がほしい。

今後、真剣に定住を促進するつもりなら、教育・文化をないがしろにしない自治体であることをしっかり住民にアピールできるような方向性くらいは維持してほしいと切に感じた。



歴史を学べる施設である。(きっかけを為した松岡俊三代議士の働き、初代所長・山口弘道の取り組み、仏の建築家・デザイナー：シャーロット・ペリアンとの関わりなど、掘り起こせることは多いのではないか。)

近年、この施設がその歴史的流れを継承しつつ、しかし、公民館的な運営に方向性が移ってきていると感じている。それはそれで、入館者を増やすことへの努力にはつながっているとと思うのだが、もっと本質的なところで施設を生かす方法はないのか、と案じている。

新庄市には現在独立行政法人管轄の雪氷防災センターがある。雪崩など雪害を防ぐための研究が、細くくなされている。真夏に雪を降らせる装置の実験室もある。

「新庄の積雪深の年変動」(約80年の積雪深を表すグラフ)を手渡し、「そこでは、降雪実験室もある」と話すと、「そう言うものを私たちはここに欲しいのです」と館長はいう。

私(たち)は、視察先「中谷宇吉郎雪の科学館」で見た、ダイヤモンドダストと水滴が氷柱を形作る簡易装置を、雪の里情報館にあればいいな、と思った。まとまった来館者はもとより、多くの学童たちにその形成過程を観察してもらう事は、新たな気づきや、ひいては探求型学習の芽生えを促すきっかけになるのではないかと。「雪の里情報館」にふさわしい“売り”には、なると感じた。目で見ると掛けは面白い。

文責：【遠藤】

【全体的事項】

- 1, 視察日程 平成 30 年 10 月 22 日(月)～ 24 日(水)
- 2, 調査事項 石川県白山市、道の駅「風土ピアめぐみの里白山」
- 3, 調査員名 奥山省三 遠藤敏信 小関 淳 3 名

【具体的事項】

- 調査事項 道の駅「風土ピアめぐみの里白山」 (白山市)
- 人口 109987 人(4 月 1 日現在) 面積 754. 93 km<sup>2</sup>
- 視察日時 平成 30 年 10 月 23 日(火) 午後 2 時～ 4 時

【概 要】

2005 年 2 月 1 日に、松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の 1 市 2 町 5 村が合併して白山市が誕生した。米は県内生産額の 14 % を占め、他にトマト、レタス、メロン等の野菜を生産している。工業については、各種製造業が盛んで、手取川の豊富な伏流水を活用した繊維や食品、精密機械等の工場が多い。道の駅の建設については平成 25 年頃から構想を立てて、今年、平成 30 年の 4 月にオープンした。総事業費は 24 億で国、県 10 億、地元が 14 億となっている。一般国道 8 号線に面し、全体の面積は約 3 ha で、指定管理者制度により営業されている。常時、スタッフはレストラン等で働く人も入れて約 20 名との事でした。3 年目の集客目標を 90 万人としているが、30 万人を直売店で 20 万人をレストランでの集客を目指すとの事。1 ヶ月に施設に入ってくる車の目標を 5 万台としているとの事。年間の維持費は約 5000 万円を見込んでいる話。道の駅の全国平均売り上げが 2 億になっているので、それを目指したいとの説明でした。物販手数料については野菜 15 %、加工品 19 %、民芸品 25 %としているが利益率は低いとの説明。この道の駅の駅長は約 3 年掛かりで民間人を採用し、今まで東京で卸売りに会社に勤務していた 50 代の人を当てているとの話でした。4 月のオープンから今まで 128 万人の来場者が有ったとの話も伺いました。

## 【所 感】

今年の4月にオープンした出来たての道の駅であるが、交流人口は多いと感じられました。目標である2億の年間売り上げについては、かなり厳しいと思われました。産直を除いて見ると、海が近いのに、殆ど鮮魚が店先に並んでいないのに気がつきました。加工品はあるものの、僅かばかりで残念でした。海があって、港も近いのに魚がそんなに取れないとの話で、折角、道の駅を建設したにも関わらず、施設が勿体ないという感じがしました。この道の駅を十分に稼働させて行くにはもう一つ工夫が必要であると感じさせられました。立地条件は申し分ないのですが、建設時に当たって、この点について議論がなされなかったのかと思うと残念としか言いようがありません。この施設は国道沿いにあり来場者数がかかなり多く、比較的楽に入りやすいため、今後もっと多くの交流人口が訪れると思いますが、中をのぞいて海産物が少ないので、その点少し不満を感じて帰ればリピーターがいなくなり、経営を長く続けていけなくなる心配があります。ここ数年のうちに海産物類をもっと増やしていく何らかの方法を考えなければ、先細っていくと思われます。施設は立地条件も良く大変立派で大きな施設なので今後に期待したいと思ひます。

奥 山